

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193800117		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム 静内さくら館1		
所在地	日高郡新ひだか町静内駒場5番40号		
自己評価作成日	令和2年10月28日	評価結果市町村受理日	令和3年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0193800117-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和2年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

太平洋を望む立地に建てられており、太陽が海に沈む景色がとても綺麗で、鮮やかな夕焼けが太平洋に沈み込むように日が暮れていきます。建物横にはビニールハウス、前庭には花壇と野菜畑があり、土いじりの好きな方は花を植えたり、水やりや手入れに動かし、収穫を楽しんでいます。

季節に応じて行楽を楽しんだり、温泉に行くなど全員で外出する機会を設けています。毎日、体操やレクリエーションを行い体を動かし、天気の良い日は外へ散歩に行ったり車でドライブなども支援しております。また、ホーム居室は各室にトイレと洗面所が配置されプライバシーに配慮され、ご自分のペースで過ごせるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は浦河国道沿いにあり、木造2階建てで全室南向きで明るく暖かく、太平洋を一望でき夕日が美しく見られる場所に立地している。運営推進会議参加への取り組みでは、年間のテーマを決めテーマに沿った講習を保健師、薬剤師、消防職員、看護師と分野毎の講師で開催し、家族や地域住人の参加者増員につなげていたが、会議自体はコロナ禍で自粛中で、文書会議となっている。コロナ禍の情報は胆振広域連合福祉課や町から届き、情報は全職員で共有し感染予防に努めている。又、町推進事業の「花のある暮らしづくり推進事業」があり、花農家支援でアレンジフラワーが毎週、1ヵ月間届けられており、利用者や職員の癒しばかりではなく、事業所理念でもある「地域全体のつながりを大切に」が実現している。職員の福利面も充実、働き易い職場環境で上級資格を目指している。母体法人は、地域の発展と繁栄を目指し多くのグループホームなどを運営し、身体拘束廃止など各種委員会を設置し、全体会議や研修等を行い事例を共有しながら蓄積されたノウハウを共有して質の高いケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が作り上げた理念を、常に目に入る所に掲示し、毎朝唱和し確認しています。	法人理念を基に、職員が作り上げた理念を共用空間や事務所に掲示し、申し送り時に唱和しながら全職員で共有し実践に努めている。年度初めに、理念は日常の生活に活かされているか話し合い、現状にあった理念に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大防止の為、交流は控えています。	町内の交流は新型コロナ感染予防のため現在は行われていないが、町推進事業で栽培の花が毎週1回で1ヵ月間アレンジフラワーが届き、利用者の居室にも飾られ、町、花農家、花店、事業所とつながりある交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町が推進している認知症カフェの開催を継続し、地域の方と交流することで認知症を理解して頂けるよう活動しています。今年度はコロナウイルス予防の為、認知症カフェを中止しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度郵送にて開催しており、地域包括支援センター職員、自治会長、家族等が参加し生活状況の報告、事故やヒヤリハット等の報告し、意見交換をしサービス向上に活かしている。意見要望など返信して頂く。	運営推進会議を2ヶ月毎に実施していたが、コロナ禍により文書報告を参加者に送付し、参加者からの意見や要望を得られるよう対応している。文書報告は、入居者の動向や入居状況、事故・ヒヤリハット等が記載されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での意見や助言を頂いたり、資料を頂いたり必要時には随時連絡、相談しています。	町担当者、胆振管内広域連合福祉課から新型コロナウイルス感染情報や、研修の案内など受けて連絡や相談をしている。町の「花のある暮らしづくり推進事業」では、町が花農家応援で花を買い取り、毎週1回、1ヵ月間アレンジフラワーが届き、利用者の反応など伝え、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の設置により、職員の研修をし、日頃からさりげなく見守り、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会の設置されており、身体拘束の具体例や弊害など内部研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。今後もマニュアルや事例を参考に再確認し共有、実践に向けた研修を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で虐待防止委員会を決め定期的な委員会をすることになっていますが、コロナ感染拡大防止により委員会が用意した資料をもとに勉強会をしたり定期的な話し合いをして防止に努めています。		

グループホーム 静内さくら館1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料をもとに各ホームで研修をしています。パンフレットをユニット入口に設置しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する時は全てを説明しご本人様の生活状況や対応しなければならない事柄をご家族様も含め、良く話し合い納得して頂いてから契約を交わしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	全体会議(コロナ感染拡大防止の為に書面にて開催)ばかりでなく入居者様一人一人の思いを汲み取り、ご家族様には意見や要望を頂き運営に反映させています。	運営推進会議報告書と共に送られている「さくら館だより」は日常の様子の写真や文言で家族の安心につなげている。意見、要望は玄関に苦情相談箱の設置や訪問時、電話などで利用者、家族の思いを汲み取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングでの意見交換や随時意見や提案をもらい反映させている。	コロナ禍のため、利用者への外出支援の自粛している中、室内での行える行事の工夫や外出支援の工夫等の職員からの意見を反映させ支援に繋いでいる。電話は子機を使い居室で対応支援や、家族とラインでのやり取りなど職員の気づきを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人が担当を決め実践したり有休利用や勤務時間の厳守を行い、年2回の個別面談も行い仕事のやりにくさや困っていることを聞き取り、職員の意識向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングで問題点を話し合ったり事業所独自で研修内容を検討し研修会を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大防止の為、交流していません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でご本人様の考え、不安等を聞き安心して頂けるように努め、普段の会話から要望等を聞き取れるよう話し易い関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご家族様の思いや要望を聞き取り、可能な限り対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族の状況を把握しホームとしてどのようなサービスができるのかお伝えしています。他のサービスが必要な時は地域包括センターへつなげています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のできる事ややりたい事を優先し、ご本人の能力に応じた家事等を一緒にするなどして頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には生活状況や体調面での相談、報告をこまめに行い月一回お便りを発送し、ホームでの生活状況を写真などを掲載し報告しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染拡大の為、外出はできませんでしたが電話などでの会話をして頂いています。	利用者は理容店に行ったり、訪問美容師と馴染みの関係を支援をしている。現在はコロナ禍の自粛のため美容師は共用フロア外で対応をしている。毎年出向している花見や紅葉狩りの場所へはドライブを兼ねて出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の特徴を考え座席を考慮し、共有スペースや食堂で利用者同士がお茶を飲みながらテレビを観たり職員も交えて談笑したり和やかに過ごされています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、祝い事や節目などに「施設で使って下さい」とお菓子やウエス用の布を持ってきて下さるご家族様もおります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中から一人ひとりの思い、意向を把握しています。意思疎通が困難でも表情や仕草から希望を把握しています。	利用者の少ない言葉や食事の状況から、思いやニーズを検討し、意向の把握に努め全職員で共有ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、ご家族様との会話から馴染みの暮らし方、環境等を全職員で共有し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活記録に日常生活、関わりや観察にて全職員が現状の身体状態を把握し、変化にすぐ気づける体制や対応に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行うカンファレンスで各対応職員の気づきや意見、提案など全職員で話し合いをしています。モニタリング表、アセスメント表を使い介護計画に反映させています。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、職員の意見を取り入れて、6か月毎に見直して作成し他計画書を家族の承認を得ている。特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、様子、気づき等細かく生活記録に記録し職員等で情報を共有しています。介護の実施や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や外出、ホーム以外の活動は、対応可能な既存のサービスに捉われないように柔軟に対応するようにしていますがコロナ感染拡大防止の為活動を控えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時は安全に配慮し地域の施設を利用したり、ホーム内の行事にボランティア団体の協力で参加して下さい、暮らしを楽しんで頂いています。今年度はコロナウイルス予防の為ボランティアの方は来ていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にかかりつけ医があり、継続して利用したいと希望される方については、そのまま受診対応をしています。希望されない方は往診医へお願いし、かかりつけ医となって頂いております。	利用者と家族がかかりつけ医受診を継続的な医療が受けられるよう支援している。協力医療機関の受診は1ヶ月に1回、看護師も週4回来所している。24時間対応で適切な医療を受けられるように支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	どんな些細な事であっても、体調の変化に気づいた時は記録に残し、看護師や管理者に報告、相談し対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関への情報提供、早期退院に向けて医療機関への訪問、相談などを通じて病院関係者との関係作りをしています。コロナウイルスの影響で緊急時以外の訪問は避けているが、電話で相談等行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができる十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応方針について説明し、ご本人様とご家族様の意向を確認し、同意書を交わしています。入居中に重度化しつつある段階で、ご家族様、かかりつけ医、職員で話し合い、ご家族様の意向に添えられるよう支援しています。看取りについては、研修を受け全職員が方針を共有しています。	入居時に重度化した場合の対応指針を明示し同意を得ている。重度化した場合は、家族と話し合い看取りを行っている。職員は重度化や終末期に向けた内部研修や外部研修を受け、職員全員で共有している。新人研修では管理者が内部研修や伝達研修を行い、方針の共有をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、消防署にて普通救命講習を全職員が受けています。定期的に更新講習を受け、実践力を身に付けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災想定避難訓練を実施している。災害時の対応マニュアルや緊急時連絡網を確立し、自治会との協力体制を築いている。また、冬期間の災害を想定した取り組みをしている。	年2回火災想定避難訓練を実施している。テントを外に設置し、一時避難場所として移動する訓練を実施している。訓練を通して、必要な物資などや避難方法を話し合っている。津波の避難については自治会と協力体制を築いている。	地震や津波等の複合災害を想定した避難訓練を実施しながら、避難対応や利用者への安全面でのサポート等、様々な面から検討し対応できる方法を身につけるような災害対策に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮した対応ができるよう、相手を敬う気持ちを心掛けています。特にトイレ誘導の声掛けや排泄の失敗は、他の方に気づかれないように心掛けています。	利用者の人格尊重と誇り・プライバシーを損ねないサービスと声かけ方について職員は理解し、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話からご本人様の話を傾聴し、何事も確認した上で選ぶ楽しさをいう気持ちを大切に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切にしています。日常会話の中から、その方の思いを理解し、その方らしい過ごし方が出来るよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で身だしなみを整えられるよう、衣類を選んで頂いたり、本人に確認し散髪へ行く方と、行けない方は美容師の方に来て頂いています。お祭りや行事の際には、浴衣を選んで頂いたり口紅をひくなどオシャレを楽しんで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきや片付けが出来る利用者様には、一緒にして頂いています。嫌いな食材がある方には、別の献立で対応しています。毎日の献立は分かるよう1ヶ月分の貼り出しています。	菜園で採れた野菜や利用者家族から果物が届いたり、退去家族からの差し入れ(現在は自粛中のため玄関に置いてある)があり、それらを盛り込み食事を楽しんでいる。行事や誕生日は利用者の希望に応じながら楽しみな食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせた調理方や、食べやすい大きさにして提供しています。食事量、水分摂取量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け誘導介助見守りで、口腔内の清潔保持して頂いています。義歯使用の方には夜間預かり洗浄剤に入れ朝返却し、ケア用品は一人ひとりに合った物を使用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を把握し、表情や仕草などから適時に誘導介助で、失敗なく快適に過ごせる様支援しています。	排泄チェック表を元にパターンを把握し、適切な声掛け誘導でトイレでの自立排泄を支援している。オムツの使用量もチェックするようにして、使用量減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を把握し、食事はバランスの良い物を提供しながら、運動や水分摂取で便秘を無くす様努めています。状況に合わせ主治医や看護師に相談し下剤を調整しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックで体調を確認し、利用者様に入浴の有無を尋ねた上で週2回、3回入浴して頂いています。その際、身体の様子など等確認しています。	毎日浴槽に湯をはり、週2～3回入浴支援をしている。利用者の希望に合わせて、シャワー浴の対応や湯の温度や時間など要望を汲み取り対応をしている。温泉施設に行き、利用者にも好評だったが、コロナ禍により自粛している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に気配りし、安眠して頂けるよう努めています。眠れない方には寄り添い、話を傾聴したり飲み物を提供し落ち着き安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師、管理者のもと薬の重複や飲み忘れがないよう管理し、薬情を職員一同が周知し、変化が見られた時は、主治医に相談し指示を受ける様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食器、テーブル拭き、食事の下準備など負担なく役割が発揮出来るよう、見守り支援しています。CDを掛け歌を聴いて頂いたりドライブ気分転換して頂いています。		

グループホーム 静内さくら館1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染拡大防止の為、外出はしていません。	コロナ禍の中、外出の機会は少ないが、庭先でお茶を飲んだり、ドライブで気分転換の支援をしている。安全宣言が出された場合は、系列事業所の利用者と「ふれあいカフェ」を限定日のみ開催しお茶やゲームを楽しむ取り組みを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で所持している方もおり、散髪に利用されたりしています。金銭管理が難しい方は、現在コロナ感染拡大防止の為買い物同行支援ができないのでご本人の要望を聞き、職員が買い物しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話があった時は気遣うことなくゆっくりと話ができるよう対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけの工夫や季節の花を飾る等、季節を感じられるよう工夫しています。冷暖房をエアコンにした事で快適に過ごせるようになりました。	広々とした居間や食堂には利用者が寛げるようソファが配置され、共用空間の壁には生活感や季節感を感じる飾り付けがされている。町推進事業で届けられたアレンジフラワーは玄関に飾り、癒しの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでも個々の居場所があり、ゆっくり過ごして頂いています。馴染みの利用者様と会話したり、雑誌や新聞を読んだり、テレビを観たり穏やかに過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の身体状況に合わせた動線作りをご本人と相談し家具や寝具を持って頂く工夫をしています。植物を好む方には植物を育てるお手伝いの支援をしています。	馴染みの品物や植物、写真を飾り、利用者が望む居室を家族と共に相談し安心して過ごせる居室づくりを支援している。仏壇を持ち込みリンをならし、以前の生活習慣で暮らし、利用者一人ひとりが自分らしく過ごせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が移動しやすい手摺りや空間に配慮しています。		